

点検・評価シート（1）

大和市学校教育基本計画

◆ 評価の基準について ◆

○基本目標の「総合評価」

A評価	基本目標の実現に向けて、期待を上回る結果が表れている。
B評価	基本目標の実現に向けて、期待された結果が表れている。
C評価	基本目標が実現に向けて、期待された結果が表れていない。

○施策の方向の「達成度」

A評価	施策の進捗状況が、25年度に期待された結果を上回っている。
B評価	施策の進捗状況が、25年度に期待された通りの結果になっている。
C評価	施策の進捗状況が、25年度に期待された結果を下回っている。

基本目標1 夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます

子どもたちが、これからの社会の中で、心豊かにたくましく生きる人間に育っていくことができるよう、一人一人を大切に教育を進めます。

それとともに、生きてはたらく知恵を身につけ、他者と相互理解する中で、さまざまな問題に対応していく力を育成するため、“確かな学力”を身につける取り組みを推進します。

■実施計画掲載事業と平成 25 年度の実績

▼施策の方向1—1 個々のよさや可能性を伸ばす教育を進めます

自分の力を発揮し、他者に認められた経験によって、自己肯定感が高まり、夢や目標に向かうことができます。また、他者の個性を尊重し合い、互いを認め合うことにより、集団の一員である意識もはぐくまれます。一人一人を大切にしたい取り組みに努めます。


不登校で苦しむ児童・生徒に対しては、登校支援を始めとする早期対応を、いじめに苦しむ児童・生徒に対しては、心のケアなどを関係機関と連携する中で推進するとともに、学校全体でその未然防止に取り組めます。

障がいがある児童・生徒に対しては、個別の支援計画の作成や特別支援教育ヘルパーを配置することで、ハード、ソフト両面でのバリアフリーを図ります。児童・生徒が、障がいの有無や立場の違いを超えて共に理解し合い、学び合える環境を目指します。

(1)学用品等就学援助		[担当] 学校教育課		
[事業内容]	学校教育法の規定に基づき、経済的理由により就学が困難な家庭の負担を軽減するため、給食費や学用品費を援助しました。 ※給付者数は、経済状況によって大きく増減します。経済状況を注視し、効率的な援助に努めます。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	受給者数 (小学校)	計画:3,362 人 実績:3,238 人	計画:3,367 人 実績:3,205 人	計画:3,395 人 実績:-
	受給者数 (中学校)	計画:1,714 人 実績:1,709 人	計画:1,689 人 実績:1,691 人	計画:1,631 人 実績:-

(2)不登校・いじめ対策		[担当] 指導室		
[事業内容]	小学校へ入学した児童の保護者や初任の教職員を対象に、いじめ問題に対応するリーフレットを配布したほか、いじめ防止をテーマとしてフォーラムを開催しました。 また、全小・中学校で、いじめに関する無記名アンケートを実施するほか、平成 25 年度から中学校 3 校、小学校 6 校において集団アセスメントを実施して学級経営への活用を図りました。 教職員に対しては、共通認識を持って児童・生徒を理解し問題解決を図るため、学校に出向き校内研修等で指導・助言をしました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	リーフレットの配布 (新 1 年生分)	計画:2,000 枚 実績:1,900 枚	計画:2,000 枚 実績:2,100 枚	計画:2,000 枚 実績:-
	フォーラムの開催	計画:1 回 実績:1 回	計画:1 回 実績:1 回	計画:1 回 実績:-
	児童・生徒指導研修会 (訪問)	計画:小 10 回 実績:小中 12 回	計画:小 9 回 実績:小中 6 回	計画:中 9 回 実績:-

(3)外国人児童・生徒教育支援		[担当] 指導室		
[事業内容]	外国人児童・生徒の学校生活や学習の支援のため、小・中学校に日本語指導員(6名)や外国人児童・生徒教育相談員(18名)を派遣しました。また、就学前児童が学校生活にスムーズに入れるよう、相談員等を派遣しました。 このほか、(公財)大和市国際化協会の協力により、ボランティアの指導員を派遣しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	日本語指導員派遣回数	計画:418回 実績:406回	計画:418回 実績:394回	計画:418回 実績:-
	外国人児童・生徒教育相談員派遣回数	計画:473回 実績:306回	計画:473回 実績:439回	計画:473回 実績:-
	就学前指導(プレスクール)	計画:50回 実績:50回	計画:50回 実績:49回	計画:50回 実績:-

(4)不登校対策		[担当] 青少年相談室		
[事業内容]	<p>学校復帰を目的として教育支援教室(まほろば教室)を開設し、学科学習(1日3時間)のほかカウンセリングや集団活動などを行いました。また、「進級・進学時連携支援シート」を全校で活用するなど、不登校の未然防止・早期対応に取り組みました。学校教育相談員制度の課題であった相談員の専門性と継続性を確保するため、同制度を廃止したうえで、小学校に週1回相談室の相談員を派遣し、面接相談・児童観察・家庭訪問を行いました。</p> <p>さらに、スクールソーシャルワーカーと心理カウンセラーを各2名配置し、福祉や心理面でより高い専門性を必要とする相談業務を担うとともに、相談員の指導・助言も行うことで、不登校児童・生徒に寄り添った支援ができました。</p>			
				
		<p>「まほろば教室」通室生のパッチワーク作品</p>		
[計画と実績]		H24	H25	H26
	まほろば教室通室人数(年度未登録者数)	計画: 30人 実績: 34人	計画:30人 実績:33人	計画:30人 実績:-
	『進級・進学時連携支援シート』の導入・活用	計画:導入 実績:全28校	計画:活用 実績:活用	計画:活用 実績:-

(5)不登校生徒支援員配置		[担当] 青少年相談室		
[事業内容]	各学校での不登校に対する取り組みを活性化させるため、中学校2校に配置してきた不登校生徒支援員を拡充し、平成25年度から市内全中学校(9名)に配置しました。支援員が別室登校による学習支援や家庭訪問などの活動を行うことで、不登校の未然防止や生徒の登校支援に取り組めました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	不登校生徒支援員配置校数	計画:2校 実績:2校	計画:3校 実績:9校	計画:4校 実績:-

(6)電子黒板整備(特別支援教室)		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>特別支援学級在籍児童・生徒の学習や指導を行うにあたり、視覚支援として効果的な電子黒板を、全小・中学校の特別支援教室に設置しています。</p> <p>また、それに伴い全小・中学校を訪問し、その活用について研修を行いました。</p> <p>※通常の学級(普通教室)については、平成22年度に小学校全校に整備済み。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	電子黒板の設置	計画:28校 実績:28校	計画:活用 実績:活用	計画:活用 実績:-

(7)特別支援教育ヘルパー配置		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>障がいがある児童・生徒を一人一人の教育的ニーズに応じてきめ細かく支援するため、特別支援教育ヘルパーを前年度より5名増員し、70名配置しました。配置人数については、支援を必要とする指数を算出し、その充足率100%を目指し、段階的に必要な人員を配置します。</p> <p>(平成25年度の充足率は93%)</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	ヘルパー配置人数	計画:65人 実績:65人	計画:70人 実績:70人	計画:70人 実績:-

(8)学校教育相談員配置		[担当] 青少年相談室		
[事業内容]	<p>児童・生徒が不安や悩みを気軽に話せ、心のゆとりを持てる環境をつくるため、小学校に「子どもと親の相談員」を、中学校に「心の教室相談員」を配置し、児童・生徒、保護者、教職員からの相談に対応してきました。しかし、相談員の待遇面などから、専門性の高い有資格者の相談員を確保することが困難であったこと、また相談員の定着率に課題があったことなどから、本制度については平成24年度末をもって廃止しました。</p> <p>平成25年度からは、本制度に代わり小学校には青少年相談室相談員を派遣するとともに、中学校には県費スクールカウンセラーの派遣日数を増やすほか、不登校生徒支援員を全校に配置することで、相談員の専門性や継続性を確保するとともに、不登校対策の拡充を図りました。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	相談員の配置日数(小学校)	計画:週1日 実績:週1日	廃止	
	相談員の配置日数(中学校)	計画:週2日 実績:週2日	廃止	
	学校教育相談員対象研修	計画:3回 実績:3回	廃止	

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・教育委員会が作成した就学援助のお知らせを全校児童・生徒に配布し、制度の周知に努めています。
- ・一人一人を大切にすきめ細かな指導や日常の教育相談活動に努め、不登校生徒支援員等を活用して不登校の早期発見やいじめ問題の未然防止に向けて取り組んでいます。
- ・担任と支援教育部や児童指導部・養護教諭などが組織的な連携を図り、情報を共有するとともに、必要に応じて相談員・SA 等と連携したり、関係機関(家庭こども相談担当、生活援護課、児童相談所、養護学校)と協力したりして支援を行いました。
- ・児童へのアンケートを年二回実施するなど実態把握に努めるとともに、その追跡調査を行い、問題が確認される場合は、関係職員で解決までのプロセスを確認しました。
- ・教育相談活動を充実させ、生徒の悩みに寄り添い、友人関係の把握やトラブルの未然防止に努めました。
- ・集団アセスメントテストの結果を活用して、生徒・学級の状況把握と課題解決のための取り組みを行いました。
- ・自己存在感を高める手法の一つとして、生徒がお互いの良いところを書いたカードを日常的にポストに入れ、それを、教員が生徒に紹介したり、励ましの材料にしたりしました。
- ・良い行動を奨励し、それを認め合う雰囲気を作るとともに、個々の生徒に対して、居場所のある学校づくりに取り組みました。
- ・児童会の取り組みとして「いじめ防止標語」や学校全体で「いじめ防止ポスター」の積極的な作成を促し、いじめに対して、考える機会としました。
- ・中学校の生徒会役員が小学校に出向き、「いじめ防止教室」を開催し、小学校 4 年生以上を対象にいじめは絶対にいけないこと、困ったときには身近な人に相談することなどを伝えました。
- ・国際教室では、個々の児童にあった教材を選択し、外国籍児童への取出し授業や日本語指導員との取出し授業を実施するとともに、在籍学級での T・T 指導などを実施しました。また、NPO とも連携しながら、日本語の指導に取り組みました。
- ・国際学級の担当が中心となり、外国につながる児童生徒に日本の風習を理解させたり、全校児童生徒に諸外国の言語・習慣・遊びなどの文化を紹介したりしました。
- ・特別支援学級に在籍している児童生徒にとっては、視覚支援が有効なことから、電子黒板を活用した学習を取り入れ、より分かる授業を実施しています。
- ・特別支援学級に在籍している児童生徒に対して、ヘルパーによる基本的生活の介助、学習活動、教室間移動等における介助、安全確認、運動会・キャンプ・修学旅行等の引率など行ないました。

▼施策の方向1—2 “確かな学力”を身につける教育を進めます

学習内容に即した教材の導入を図るとともに、学習環境の整備を進めます。また、「わかる喜び、学ぶ楽しさ」を体感できる学習を通し、学習意欲の向上と学習習慣の定着をめざします。


また、情報モラル教育や環境教育など、変化する現代社会において不可欠な「時代に即した教育」を、様々な教科等を通して進めます。

併せて、学習時間の弾力化や学級を超えた学習集団の弾力的編制など、実情に応じた効果的学習を進めていきます。また、授業の構成や進め方を工夫することに加え、体験活動、問題解決型学習などの充実により、“生きる力”をはぐくむ豊かな学びを進めます。

(1)少人数指導等非常勤講師配置		[担当] 学校教育課		
[事業内容]	<p>小学校については、1学級の児童数が35人以上の第3学年に、中学校については、1学級の生徒数が35人以上の第1学年を対象として非常勤講師を配置することで、きめ細やかな指導を行い、順調な学校生活が送れるように支援します。</p> <p>小学校第1・第2学年が35人学級となったことから、平成25年度から小学校の配置数を5校から3校に見直しました。また、中学校では、5校に配置する予定でしたが、学校が希望する教科の講師が確保できなかったため、3校のみの配置となりました。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	講師配置校数 (小・中学校合計)	計画:10校 実績:10校	計画:10校 実績:6校	計画:10校 実績:-

(2)小・中学校教材等整備		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>小・中学校の教育活動に必要な教材(跳び箱やサッカーゴール、楽器、ミシン等)を学校の要望に基づき整備しました。また、適正な教材選定等を検討するため、教材教具研究協議会を開催しました。</p> <p>教材教具研究協議会において取り決めた“児童・生徒数に応じた必要な備品数”などを基準とし、学校要望に応じた教材備品を配布します。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	(学校からの要望に基づき)教材の配布	計画:配布 実績:配布	計画:配布 実績:配布	計画:配布 実績:-

(3)指導図書等整備		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>教科指導を効果的に行う環境を整えるため、教員に教科書、準教科書(道徳、体育、進路※中学校のみ)、指導書(道徳、体育)及び指導用教材を配布しました。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	指導用配布教科書の種目数(小学校)	計画:11種目 実績:11種目	計画:11種目 実績:11種類	計画:11種目 実績:-
	指導用配布教科書の種目数(中学校)	計画:15種目 実績:15種目	計画:15種目 実績:15種類	計画:15種目 実績:-

(4) 読書活動の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>子どもたちの自主的な読書活動を推進するため、第2回大和市子ども読書フォーラムを開催したほか、大和市子ども読書感想文コンクールを実施し、優秀作品を文集「こすもす」に掲載しました。</p> <p>また、「やまと 学校読書力アップチャレンジプロジェクト」を推進し、朝読書などの読書活動を各小・中学校で進め、本に親しむ時間を確保するとともに、教科等の年間カリキュラムの中に図書館利用の時間を位置付けるなど、学校における読書活動の推進を図りました。</p>			
	 <p>大和市子ども読書フォーラム</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	フォーラムの開催回数	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:-
	大和市子ども読書感想文コンクールの実施	計画:実施 実績:実施	計画:実施 実績:実施	計画:実施 実績:-

(5) 英語教育の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>児童・生徒がコミュニケーションを図ろうとする態度やコミュニケーション能力を育成するために、中学校に英語指導助手3名、小学校に外国語活動指導助手7名を派遣しました。また、教職員・英語指導助手・外国語活動指導助手対象の研修会で指導方法などを周知したほか、教科担当・担任との打ち合わせの時間を確保し、授業内容を充実させました。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	英語指導助手の派遣 時数	計画:8~12時間/学級 実績:9時間/学級	計画:8~12時間/学級 実績:9時間/学級	計画:8~12時間/学級 実績:-
	外国語活動指導助手 の派遣時数(5・6年生)	計画:35時間/学級 実績:34.5時間/学級	計画:35時間/学級 実績:34.8時間/学級	計画:35時間/学級 実績:-
	外国語活動指導助手 の派遣時数(1~4年生)	計画:2~5時間/学級 実績:2.4時間/学級	計画:2~5時間/学級 実績:2.6時間/学級	計画:2~5時間/学級 実績:-

(6)情報教育の推進**[担当] 教育研究所**

[事業内容] ICT機器を活用する授業の実践に関する研修講座と調査研究を実施しました。情報教育推進校において、学校単位で2年間の実践研究を行い、教育成果を発表会、紀要として公開しました。また、西鶴間小学校では、民間企業の支援を受けて、タブレット型コンピュータの実証研究を行いました。

情報教育計画策定のための情報教育プロジェクト委員会を2回(前年度3回)開催しました。
※情報セキュリティに関する研修講座は、役職ごとの研修を合同で実施することとしたため回数が減少しています。

[計画と実績]	H24	H25	H26
情報モラルに関する調査研究	計画:調査研究 実績:9回	計画:研究成果の普及・実践 実績:紀要を配布	計画:研究成果の普及・実践 実績:-
情報教育に関する調査研究		計画:調査研究 実績:11回	計画:調査研究 実績:-
情報セキュリティに関する研修回数(講座)	計画:5回 実績:3回	計画:3回 実績:1回	計画:3回 実績:-
情報セキュリティに関する研修回数(訪問)	計画:小19回 実績:小19回	計画:中9回 実績:中9回	計画:小10回 実績:-

(7)理科教育・環境教育の推進**[担当] 教育研究所**

[事業内容] 教職員や市民を対象とした、理科教育・環境教育に関する、実験・体験を中心とした研修事業を3回開催し、学校の要請に応じて、理科訪問研修を行いました。

- ・「小学校理科の観察・実験の基礎」
- ・「海から学ぼう環境教育～水中写真で見る地球環境～」
- ・「泉の森、ふれあいの森～副読本『大和の自然』を手にとって～」
- ・理科訪問研修:訪問校数6校

児童・生徒を対象にした子ども科学教室等を開催しました。(カッコ内は前年度)



やまと おもしろ科学館

- ・子ども科学教室:開催回数5回(7回) 参加人数 123人(211人)
- ・やまと おもしろ科学館 :開催回数 2回(2回) 参加者数1,275人(1,634人)

[計画と実績]	H24	H25	H26
小学校理科副読本改訂版の発刊	計画:5,000冊 (新3・4年生) 実績:5,200冊	計画:2,300冊 (新3年生) 実績:2,300冊	計画:2,300冊 (新3年生) 実績:-
小学校理科副読本指導資料集発刊		計画:2,000冊 実績:1,100冊	

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・研修などを通じて、職責に応じた情報セキュリティに関する知識を学ぶなどして学校全体のセキュリティに生かしています。
- ・「大和市立小中学校における教育ネットワークシステム利用要領」及び「大和市立小中学校における教育ネットワークシステム管理運用マニュアル」に則り機器の運用を行っています。
- ・校内研のテーマを生かしつつ授業研究を進めながら、並行して個をきめ細やかに見取るために、観点別評価に関する確認を行ないました。
- ・学習支援の必要な児童については、SA や国際教室担任・日本語指導員等・学習支援ボランティアによる取出し授業で個別指導を実施した。
- ・教科の指導計画についての確認・電子黒板を活用した授業の工夫を行うとともに、校内研究において「思考力・表現力」を高めるために「かく」活動に重点をおき「チャレンジ・Myノート」とし、わかりやすいノート作成を児童の努力目標として授業研究を進めました。
- ・プロセス重視の指導案による研究授業を全員の教員が行うことや、その授業を参観した感想を付箋紙に記入し職員室内に掲示して授業改善に役立てている。
- ・言語活動の充実や表現力・思考力をつけさせるために、ペア学習やグループ学習の学習形態を積極的に取り入れました。
- ・個々の生徒の状況に応じて、授業への入り込みや取り出し、放課後の学習会を実施しました。また、長期休業やテスト前などに各学年で補充学習を実施しました。
- ・読書活動を重点目標に設定し、朝読書や読み聞かせ等の取り組みを実施するとともに、春・秋の読書週間の実施やたくさん読んだ児童の表彰などを行いました。また、ブックトレイン・ビンゴなど、意欲を喚起する読書活動の取り組みを実施しました。
- ・朝読書、昼読書、ボランティアの方による読み聞かせ、図書委員会による読み聞かせ、図書館司書による読み聞かせ、放課後子ども教室の図書館の開放、朝の図書館の開放を行ないました。
- ・掲示などに気を配り、学校図書館の環境を整え、活用しやすい学校図書館を目指して取り組みました。
- ・司書と担任・教科担任が連携を取りながら学習に関する本を教室の前や図書室に展示するなどタイムリーな本の紹介を実施しました。
- ・家読の期間を設け、親子で本に親しむ取り組みを行うとともに、保護者へも本を貸し出しました。
- ・国語科において「読書指導年間計画」を作成するとともに、週3回の読書活動の時間を設定しました。また、学校図書館が授業でも利用しやすいように、SLSの指導助言のもと書架や机の配置を見直すとともに、蔵書の分類を整理しました。

▼施策の方向1—3 体験活動を充実します

異年齢の人との交流、スポーツ活動、自然体験活動、集団宿泊体験、ボランティア活動など、社会活動や体験活動の充実を図ります。その結果、児童・生徒の自己有用感をはぐくみ、人間関係を築く力やコミュニケーション能力を育成します。

また、生き方を考える教育を通して、児童・生徒の自己実現を促します。特に中学校を中心とした職場体験活動の充実を図ります。

(1)中学校部活動支援		[担当] 指導室		
[事業内容]	学校教育の一環である部活動の充実のため、専門性をもった教員が学校にいない場合に、地域の方に部活動の指導者として協力をいただき、支援を行いました。また、中学校体育連盟主催全国大会等の出場校には派遣費を支給し、その活動を支援しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	地域指導者の派遣人数	計画:30人 実績:30人	計画:30人 実績:30人	計画:30人 実績:-

(2)体験活動の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	集団活動の楽しさや自然体験などを経験させるとともに、健康増進につながる宿泊体験学習などの体験活動が行われるよう、小学校では第5学年時に、中学校では第2学年時に行うキャンプ活動に対し、費用の一部を補助しました。 また、絵画などの美術作品を鑑賞し、お互いに意見を述べることで、観察力や思考力、コミュニケーション能力を培う取り組みとして、対話型美術鑑賞教育を小学校10校で実施しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	健康増進事業補助金 交付校数	計画:28校 実績:28校	計画:28校 実績:28校	計画:28校 実績:-

(3)職場体験学習の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	中学校で職場体験学習が推進されるよう、職場体験の受け入れに協力する市機関の一覧表を作成し、各校へ配布しました。このほか、学校のキャリア教育担当者へ職場体験推進に向けた情報を提供しました。 ※職場体験受入れ機関:コミュニティセンター、学校給食共同調理場、市立保育園、市立図書館、グリーンアップセンター、消防署 など			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	職場体験協力機関一覧表の作成・配布	計画:作成・配布 実績:作成・配布	計画:作成・配布 実績:作成・配布	計画:作成・配布 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・自然とのふれあいを大切にしたキャンプを実施し、登山やキャンプファイヤーを通して、自然に親しむと同時に仲間とのつながりを大切にする活動を行いました。
- ・修学旅行をとおして、歴史や文化・伝統に触れ、見識を深める機会としています。
- ・教科や領域の学習の中で、実体験を通して認識する活動を取り入れました。
 - 社会：工場見学や社会見学
 - 生活：昔の遊び（七輪の火おこしや洗濯板の体験学習、竹馬、縄結び）
 - 外国語活動：アメリカンスクールとの交流
 - 福祉体験：アイマスク体験、手話学習、車いすバスケット体験、老人ホームとの交流、透析者の講演
 - 環境教育：引地川クリーン作戦、地域のリサイクルステーション活動
- ・地域の事業所や地域の方々の協力を得て職業講話や職場体験を実施するなど、キャリア教育の推進に努めています。
- ・部活動において、地域指導者に専門的技術を指導・支援していただき、生徒の意欲向上につなげています。

▼施策の方向1—4 教育活動全体で道徳教育・人権教育の推進を図ります

豊かな情操や自他の生命尊重の精神、規範意識、公共の精神などをはぐくむために、道徳の時間を要として学校教育活動全体で、子どもの発達に応じ、実践力を伴う道徳教育の充実を図ります。

児童・生徒自身が一人の人間として大切にされているという実感をもつことで、自己や他者を尊重しようとし、主体的に行動できる人権感覚を備えた児童・生徒の育成をめざします。

(1)道徳教育の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	学校訪問の際に、道徳の全体計画・指導計画や具体的な指導方法について指導・助言を行うことで、道徳教育に対する意識の向上を図りました。また、初任者を対象に道徳教育のあり方や具体的な指導方法についての研修会を開催し、実践での指導に生かせる研修を行いました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	教育課題(道徳)研究推進校への支援	計画:支援 実績:支援	計画:支援 実績:支援	計画:各学校への普及・実践 実績:-
	研修会の開催回数	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:-

(2)人権教育の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	人権教育の目標である「一人ひとりの児童・生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、自分の大切さとともに他人の大切さを認めること」が達成されるように、教職員向けに人権教育に係る研修会を開催したほか、児童・生徒向けの講演会に対し、講師を紹介するなどの支援を行いました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	研修会の開催回数	計画:4回 実績:4回	計画:4回 実績:4回	計画:4回 実績:-
	児童・生徒対象講演会への支援件数	計画:7件 実績:4件	計画:7件 実績:8件	計画:7件 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・全体計画、年間指導計画に沿って、全教科・領域で道徳教育を意識した教育活動に取り組みました。
- ・あいさつ運動を継続するとともに、新たに学級指導の時間を設け、あいさつの大切さ、仕方などを指導し、内面化を図りました。
- ・学校のスローガンを「笑顔で挨拶しよう・廊下を静かに歩こう・友だちの良いところを見つけよう」とし、「思いやり」の視点から、定期的に生活を見直しました。
- ・児童会活動として、朝のあいさつ運動や縦割り活動を行い、異学年の交流を大切にしました。また、道徳や総合的な学習の時間を通して、「命の大切さ」「信頼し合うことの大切さ」などお互いに考え学び合う指導を行いました。
- ・道徳と家庭科とのタイアップで、「3.11 肖像写真プロジェクト」の取り組みに参加し、被災地の方々と写真や手紙を交換したりし交流を深めています。
- ・教育目標である「共生・共育」の視点にたち、道徳や教科の時間などに人権尊重の授業を行いました。
- ・人権教育強化月間（11月）を設け、全校一斉に指導にあたりました。
- ・警察の方を招き、いじめ防止教室や携帯電話教室など、人権や情報モラルについての学習をしました。
- ・横浜国際人権センターなどのさまざまな団体等から講師を招き人権講話を実施しました。
- ・出前授業で戦争体験を題材に、命の大切さやお互いを大事にする講話を実施しました。

▼施策の方向1—5 豊かな感性や情緒をはぐくむ読書活動などの充実を図ります

感性や情緒を豊かなものにし、創造力をはぐくむ読書活動や文化活動は、子どもの健やかな成長にとって大変重要なものです。また、伝統文化などにふれる活動を通して、国際社会で生きていく上で欠かせない異文化尊重などの国際感覚をはぐくみます。

(1)読書活動の推進 (再掲)		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>子どもたちの自主的な読書活動を推進するため、第2回大和市子ども読書フォーラムを開催したほか、大和市子ども読書感想文コンクールを実施し、優秀作品を文集「こすもす」に掲載しました。</p> <p>また、「やまと 学校読書力アップチャレンジプロジェクト」を推進し、朝読書などの読書活動を各小・中学校で進め、本に親しむ時間を確保するとともに、教科等の年間カリキュラムの中に図書館利用の時間を位置付けるなど、学校における読書活動の推進を図りました。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	フォーラムの開催回数	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:-
	(仮称)大和市子ども読書感想文コンクールの実施	計画:実施 実績:実施	計画:実施 実績:実施	計画:実施 実績:-

(2)学校図書館教育の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>学校図書館に司書を配置し、本の魅力の発信や調べ学習に関する本の収集、図書館の整備などを行うことで、児童・生徒が読書活動に親しみ、授業でも有効活用できるように支援を行いました。</p> <p>また、学校図書館教育をさらに活性化させるため、平成25年度から指導室に「学校図書館支援チーム」を置くとともに、学校図書館スーパーバイザー(SLS)を配置しました。学校図書館教育に関する研修会では、SLSが中心となり講義や演習を実施するほか、各学校を巡回し、学校図書館の運営や活用の支援を行い、学校図書館利用の促進を図りました。</p>			
				
		本の紹介展示を工夫した図書室		
[計画と実績]		H24	H25	H26
	司書教諭等・学校図書館司書対象研修会の開催回数	計画:2回 実績:2回	計画:2回 実績:2回	計画:2回 実績:-
	学校図書館司書連絡会の開催回数	計画:3回 実績:3回	計画:3回 実績:3回	計画:3回 実績:-

(3) 中学校図書館施設整備**[担当] 指導室**

[事業内容] 生徒の自主的な読書活動を推進し、生徒の感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにするため、生徒がより利用したくなる魅力のある図書室にリニューアルします。

平成 25 年度は、大和中、鶴間中、南林間中、上和田中の4校で実施しました。

※渋谷中、光丘中については、整備済み



リニューアルした図書室

[計画と実績]

	H24	H25	H26
中学校における整備内容の検討	計画: 検討 実績: 検討		
学校図書館施設の改修		計画: 大和中 他 3 校 実績: 計画通り実施	計画: つきみ野中学校 他 2 校 実績: -

(4) 芸術鑑賞等学校行事支援**[担当] 指導室**

[事業内容] 児童・生徒が優れた伝統文化や芸術に接する機会を保障することを目的とした文化的行事の推進のため、各小・中学校で毎年1回程度開催する、演劇や音楽等の鑑賞会に対し、費用の一部を助成しました。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
文化的行事への助成校数	計画: 28 校 実績: 27 校	計画: 28 校 実績: 26 校	計画: 28 校 実績: -

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・ PTA から各学級の学級文庫へと図書を寄贈していただきました。
- ・ 読書活動を重点目標に設定し、朝読書や読み聞かせ等の取り組みを実施するとともに、春・秋の読書週間の実施やたくさん読んだ児童の表彰などを行いました。また、ブックトレイン・ビンゴなど、意欲を喚起する読書活動の取り組みを実施しました。
- ・ 朝読書、昼読書、ボランティアの方による読み聞かせ、図書委員会による読み聞かせ、図書司書による読み聞かせ、放課後ひろばでの図書館の開放、朝の図書館の開放を行ないました。
- ・ 掲示などに気を配るなど活用しやすい学校図書館を目指して取り組みました。
- ・ 司書と担任・教科担任が連携を取りながら学習に関する本を教室の前や図書室に展示するなどタイムリーな本の紹介を実施しました。
- ・ 家読の期間を設け、親子で本に親しむ取り組みを行うとともに、保護者へも本を貸し出しました。
- ・ 国語科において「読書指導年間計画」を作成するとともに、週 3 回の読書活動の時間を設定しました。また、学校図書館が授業でも利用しやすいように、SLSの指導助言のもと書架や机の配置を見直すとともに、蔵書の分類を整理しました。
- ・ 各学校の計画の下、音楽・劇・狂言・落語などジャンルを決定し、本物の芸術鑑賞教育を実施し、豊かな感性の育成を図っています。

▼施策の方向1—6 健康・安全教育を充実します

子どもが自らの健康をはぐくみ、災害時などにも安全を確保することができるように、基礎的な素養を育成する健康・安全教育を充実させるとともに、喫煙・飲酒・薬物乱用防止、交通安全などに関する教育を推進します。また、望ましい生活習慣や食習慣を身につけさせるため、栄養教諭を中核として食育の推進を図り、学校・家庭・地域が連携して取り組むことをめざします。

(1)健康・安全教育の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>児童・生徒が災害時等に自らの安全を確保することができるよう、基礎的な知識と実践力を育成する健康・安全教育を推進するため、健康・安全教育担当者会を開催しました。また、平成24年度に防災教育研究部会が作成した防災教育の指導事例集を活用し、各学校における効果的な避難訓練や防災訓練の実施を推進しました。</p> <p>栄養教諭を中核としたネットワークの構築による食育の推進や喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する情報提供を行い、その啓発に努めました。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	健康・安全教育担当者会の開催回数	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:-	計画:1回 実績:-
	防災教育研究部会の開催回数	計画:8~10回 実績:11回	計画:授業等において実践 実績:実施	計画:授業等において実践 実績:-

(2)学校給食における食育の推進		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	<p>健全で豊かな人間性を育むための食育の一環として、週4回の米飯給食に合う和食の献立を充実し、日本の食文化や食習慣を学ぶ機会が増えました。</p> <p>学校給食における食育推進に関する研究や、調理従事者の研修会等を実施したほか、食育推進を目的とした学校給食講習会や学校給食展を開催しました。また、PEN樹脂製食器の買い換えなどを計画的に行います。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	食育研究及び食育に関する研修の実施	計画:実施 実績:5回	計画:実施 実績:5回	計画:実施 実績:-
	PEN樹脂製食器の買い換え			計画:9校分 実績:-

(3)学校事故防止の推進		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	<p>学校内における事故防止を推進するため、プール事故など水の事故の防止、ノロウイルス予防に関するパンフレット等を教職員へ配布し、注意喚起しました。</p> <p>また、市内小・中学校で発生した学校事故を事例とした資料を作成して学校へ配布し、再発防止を呼びかけました。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	学校事故防止パンフレット等の配布回数	計画:3回 実績:3回	計画:3回 実績:3回	計画:3回 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・発達段階に応じて、「交通安全教室」、「シャッター訓練」、「防犯教室」、「万引き防止教室」、「自転車乗り方教室」、「CAP」、「薬物乱用防止教室」等を実施し、安全や防犯意識の向上がみられました。
- ・栄養士を講師に招き全学年で食育の授業を行い、食育に対する意識を高めました。また、給食委員会の活動としてお昼の放送を利用した栄養の話で食育を推進しました。
- ・健康・食育教育の一環として、虫歯と食生活について養護教諭と栄養士が連携し、授業を実施しました。
- ・神奈川県助産師会から講師を招き、5年生で「命について」の講演会を実施しました。
- ・水泳学習指導前に心肺蘇生法救急講習の研修会を実施しました。
- ・スタントマンによる交通事故再現を取り入れた自転車交通安全教室を開催し、交通事故防止の啓発に努めました。
- ・安全防災担当を中心に時間帯や災害の種類の設定を変えた避難訓練を実施しました。
- ・中学校区で同一の日に引き取り訓練を実施し、より実際の場面に近い形で取り組みました。
- ・安全教育として防災訓練を年2回実施し、4月には消防署の協力により、地震体験車や煙が充満する部屋の体験等も行いました。

施策の方向1—1 個々のよさや可能性を伸ばす教育を進めます

[施策の達成度] B

[施策の成果]

- ・学校における相談体制を強化するため、小学校へは青少年相談室から相談員を派遣することとし、相談員の専門性や継続性の確保に努めました。また、中学校へは全校に不登校生徒支援員を配置し、教室で授業が受けられない生徒に別室での学習支援を行うほか、相談や家庭訪問をとおして不登校生徒の学校復帰を支援しました。これらにより不登校の未然防止・早期対応・登校支援の取り組みを促進しました。
- ・いじめ防止に関して、児童生徒が主体となって発信していくことは非常に重要であり、いじめを考えるフォーラムで中学生が発表したことや、中学生が小学校に出向いて、いじめ防止教室を実施したことは、非常に有効でした。
- ・客観性を持つ集団アセスメントを実施し、個々の児童・生徒の状況に応じたきめ細かい支援や、学年行事等の工夫につなげることで、よりよい学級づくりを進めることができました。また、いじめに関するアンケートや教育相談等により、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を図りました。
- ・校長・教頭・教務担当者・児童生徒指導担当者等を対象として、いじめに関する講演や各種研修会を重点的に実施しました。また、各学校における「いじめ防止基本方針」に関して、基本理念や作成のポイントを周知し、その作成を指示しました。これらの取り組みにより、これまで以上に、いじめに対する意識の向上が見られ、各学校でのいじめ問題への適切な対応につながっています。
- ・児童・生徒一人ひとりが抱える教育的ニーズに対して、特別支援教育ヘルパーやスクールアシスタントの増員など支援体制を充実することで、児童・生徒が困り感を縮小し学校生活を送ることができています。
- ・経済的に困窮している家庭に対し、就学援助制度を適用することにより、学校における学習環境の平等性を維持しています。

[今後の課題]

- ・成果指標として設定した「不登校児童・生徒の割合」は、前年度と比べて小学校で微減しましたが、中学校では0.51ポイント増加しました。不登校生徒支援員が家庭訪問を積極的に行っている学校では出現率を減少させられていることから、その実践を共有し、活動をより効果的なものしていく必要があります。また、同支援員に対する青少年相談室からの支援を充実するとともに、連携の強化を図る必要があります。
- ・教職員が児童生徒指導について共通認識を持ち、事案が発生した場合には、報告・連絡・相談を徹底し、迅速かつ組織的に対応する必要があります。特に小学校では、事案を総括し、適切に対処するための中核的な役割を担う人材の育成が求められます。
- ・児童生徒一人ひとりが存在感を持てる集団は、充実した学校生活を過ごすことにつながることから、学校教育全般をとおして、より良い集団づくりを行うことが必要です。特に経験の浅い教職員に対して重点的な研修が必要であるとともに、客観的に学級集団の状態を把握し、効果的な対応が行えるよう、学級集団アセスメントの実施校の拡大が望まれます。
- ・各学校の「いじめ防止基本方針」による取り組みが着実に行われるよう徹底する必要があります。
- ・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応できるように、特別支援教育ヘルパーや日本語指導員等の更なる充実が求められています。特に、普通級に在籍する学習支援が必要な児童・生徒が増加しており、スクールアシスタントのニーズが高くなっています。

[特記事項]

- ・就学援助については生活保護基準の改定を注視していく必要があります。

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
不登校児童・生徒の割合	%	小)	0.40	0.43	0.40	0.33	0.25
		中)	3.34	3.01	3.52		
いじめ問題解消の状況(解消率)	%	小)	97.9	94.3	95.4	100.0	100.0
		中)	95.1	100.0	98.6		

施策の方向1—2 “確かな学力”を身につける教育を進めます	[施策の達成度] B
--------------------------------------	-------------------

[施策の成果]

- ・授業公開や校内研修を積極的に取り入れ、授業形態の工夫や指導法の改善を行い、一人一人の児童・生徒に対して目指す姿の達成に努めました。その結果、言語活動を活発に取り入れる授業が増加し、思考・判断・表現の育成につながっています。
- ・外国語教育では、小中学校の連携や外国語活動指導助手及び英語指導助手対象の研修などとおし、小学校でコミュニケーション能力の素地を養い、中学校ではその基礎を定着させることを明確にして指導に当たっており、児童・生徒の表現力等の向上につながっています。
- ・少人数指導等非常勤講師の派遣により、きめ細やかな指導の実践ができ、学校環境に馴染めない児童・生徒の出現防止につながっています。
- ・ICT 機器に関する研修や実践研究をとおして、ICT 機器を活用した授業改善が進められています。また情報モラルに関する調査研究や、その発表会などを通じて情報モラルについて教職員の理解を深めることができ、児童・生徒指導に生かすことができています。
- ・理科副読本を活用した授業実践を行うための、教師用資料集「大和の自然 指導資料集」を作成して、市内小学校全教員に配布しました。

[今後の課題]

- ・成果指標として設定した「学校の勉強がわかると答えた児童・生徒の割合」は、前年度と比べて小学校で横這い、中学校で2.9ポイント減少しています。全国学力・学習状況調査の結果からは、家庭学習の不足や基礎基本の力の定着に課題があることが明らかになっており、家庭学習の推進とともに、日頃の授業づくりや一人ひとりの評価をどのように示し、生かしていくかが重要になります。
- ・平成 27 年度から導入される三学期制が、児童生徒の学力向上や充実した学校生活に結びつくように、授業日の設定や時間数確保の方策、さらに、評価の通知方法などを検討していく必要があります。
- ・次回の学習指導要領改訂で導入されることが予定されている英語教育に関して、計画的・段階的に移行するための対応を検討する必要があります。
- ・学校図書館を活用した授業の展開をさらに研究していくことが必要です。
- ・学校で児童・生徒へ向けた情報モラル教育を的確に行うため、教員に対する支援が求められています。
- ・教員の理科の授業力向上を図ることが求められています。

[特記事項]

- ・学力向上に向けて、教育委員会、学校、地域、家庭が相互に連携した新たな事業展開を検討し、平成 26 年度の実施に向けて予算措置を行いました。

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
学校の勉強がわかると答えた児童・生徒の割合	%	小) 83.7	88.5	88.5		90.0	95.0
		中) 75.6	78.9	76.0		81.0	85.0

施策の方向1—3 体験活動を充実します					【施策の達成度】	B	
<p>【施策の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果指標として設定した「将来の夢や希望を持っていると答えた児童・生徒の割合」は小学校で前年度から5.1ポイント増となり中間目標値である89%を超えました。その要因の一つとしては、市長部局と連携した「JFA こころのプロジェクト『夢の教室』」を小学校5年生の全てのクラスで実施したことが挙げられます。一方で、中学校では、中間目標値を超えた前年度から3.4ポイントの減となりました。 体験学習等を推進するため、教育委員会では、自然体験・文化的な体験・職場体験などの情報提供や支援を行っており、各学校では、地域の人材などを活用して、教科の授業だけでなく合唱指導や昔の遊びの紹介、キャリア教育や平和教育などが実践されています。専門的な知識や技術を持った方の指導や、実体験に基づく話などを聞くことで、児童・生徒の豊かな心や将来の夢を育てる機会となっています。 中学校の部活動運営に関して、運動部・文化部に関わらず、地域指導者の情報提供や指導者派遣の支援を行うことで、顧問と地域指導者が連携した効果的な活動につながっています。 小学校10校を対象に対話型美術鑑賞教育を実施しました。本物の美術作品を様々な視点から鑑賞し、意見を述べ合うことで感性豊かな児童の育成に繋がっています <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本物を見る・聴く・触れる体験をすることは、感性豊かな児童・生徒を育成したり、将来の自分について考える機会を与えたりすることになります。各学校での教育活動に効果的な体験学習が組み入れられるよう、教育委員会からの発信を工夫していく必要があります。 小学校で好評であった、「JFA こころのプロジェクト『夢の教室』」の中学校での実施を進めます。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
将来の夢や目標をもっている と答えた児童・生徒の割合	%	小)	88.2	87.3	92.4	89.0	89.0
		中)	69.8	74.0	70.6	71.0	72.0

施策の方向1—4 教育活動全体で道徳教育・人権教育の推進を図ります					【施策の達成度】	B	
<p>【施策の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果指標として設定した「自分からあいさつをすると答えた児童・生徒の割合」は前年度と比べ、小学校で1.3ポイント減少しましたが、中学校では1.7ポイントの増加となっています。 道徳教育は、道徳の時間だけでなく教育活動全体を通して児童生徒に発信する必要があることから、計画訪問や要請訪問における授業の指導案に道徳的な記載を求めるなど、教員の意識の向上を図りました。学校によっては、道徳の副読本を朝読書の題材として扱うようになるなど、児童・生徒の豊かな感性の育成につながっています。 「いじめ問題」は道徳や犯罪としての捉え方だけではなく、人権教育の側面からも指導する場面が多くなっています。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権教育が計画的かつ体系的に進められるよう、各学校で全体計画を作成することが必要です。また、道徳教育や人権教育は自らの経験と重ね合わせて学習することが有効であり、日常の行動や行事の取り組み、社会での出来事などを題材として発信していくことが重要です。 							
成果を図る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
自分からあいさつを すると答えた児童・ 生徒の割合	%	小)	88.9	87.5	86.2	92.0	95.0
		中)	84.1	84.7	86.4	90.0	95.0

施策の方向1—5 豊かな感性や情緒をはぐくむ読書活動などの充実を図ります				[施策の達成度] A			
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の活用を推進するため、教育課程研究協議会において「学校図書館を活用した授業の研究」を行ない、その成果をまとめた冊子を小・中学校に配付しました。各学校では、授業や学校図書館の運営に有効利用しています。 ・平成 25 年度から配置した学校図書館教育スーパーバイザーが中心となり、研修会での講義や演習、各学校を巡回しての学校図書館の運営や活用の支援など、学校図書館教育全般の指導・支援を実施しました。 ・小学校では、学校図書館の利用が活性化しており、1 学級の年間活用回数が平均 18.9 回、1 か月間の平均読書冊数も昨年度より約 1 冊増加しました。また、学習活動における利用も増加傾向にあります。 ・学校図書館の蔵書について、新鮮度を高めつつ、充実を図りました。小学校では 12 校で蔵書率が 100%に達し（他の 7 校も 96%以上）、児童にとって興味深い図書や調べ学習に適した図書などを取り揃えることができました。 ・中学校では、蔵書率は平均で 93%と 100%には達していませんが、1 校平均 1,815 冊の入れ替えをし、新鮮度を高めることができました。また、中学校 4 校で学校図書館のリニューアルを実施したことで、多くの生徒が図書館へ足を運び、読書活動や調べ学習などに有効利用しています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで以上に学校図書館の活用や読書活動を活発にしていくために、貸し出し手続きの効率化を図り、正確な蔵書管理や円滑で適切な蔵書検索を可能にするシステムの構築が必要です。 ・成果指標として設定した「1 ヶ月間の平均読書冊数」は、中学校で引き続き計画策定時を下回る結果となっています。図書館リニューアルによる休館などが要因と考えられますが、これまでの取り組みをさらに強化する必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
1 ヶ月間の平均読書冊数	冊	小) 12	11.3	12.2		13	14
		中) 5	3.7	3.3		5.5	6

施策の方向1—6 健康・安全教育を充実します				[施策の達成度] B			
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校事故等の発生防止のための啓発チラシを各学校に 3 回配布するなど啓発に努め、成果指標として設定している「学校事故発生率」が小学校で 2.9%まで減少しました。 ・防災訓練の一環として実施している引取り訓練では、より実践的な形式が取れるよう発信しました。先進的な中学校区では、小中合同の引き取り訓練を実施するなど、問題点の把握に努めています。 ・交通事故防止の取り組みや食物アレルギーへの対応、AED の活用などについて研修会を開催することにより、児童生徒の安全指導に役立てることができました。 ・大和市立病院小児科専門医の協力により、全小・中学校を対象にアナフィラキシーとアドレナリン自己注射薬の出前研修を実施したことは、教職員の理解を深めるうえで大変有効でした。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校事故発生率は小学校では目標値を達成しましたが、中学校は前年度に比べ 1.3 ポイント増加していることから、事故防止に向けた情報提供を引き続き実施していきます。 ・学校における安全指導に関して、常に注意を払いながら教育活動を実践するとともに、事故が起きた時に適切な対応が取れるように注意喚起していく必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
児童・生徒学校事故発生率	%	小) 4.8	3.4	2.9		4.0	4.0
		中) 10.2	10.0	11.3		9.4	9.4

基本目標1 夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます

[総合評価] B

[基本目標1に対する評価、及び目標達成に向けた施策の展開方針]

各施策の方向においての積極的な取り組みがすすめられており、特に重点施策となる「いじめ・不登校問題の解消」と「読書活動の推進」については、施策推進のためのさまざまな環境整備が進んでいます。しかし、その成果が十分には表れていない面もあることから、児童・生徒に関わる多様な職種の職員のさらなる連携を図るなど、それぞれの施策で捉えられた課題に向き合い、改善策を検討するとともに不断の見直しを行うことで施策の効果を高めていく必要があります。

基本目標2 創意に満ち、活力ある学校づくりを進めます

子どもの生きる力をはぐくむために、創意ある教育課程の編成と、地域の風が行き交う信頼される学校づくりに努めます。

教職員は、子どもたちの「自ら成長する力」をはぐくむために、自らの職責の重要性を認識し、自己研鑽に努めることで、教職員としての資質向上をめざします。

■実施計画掲載事業と平成25年度の実績

▼施策の方向2—1 創意ある教育課程の編成に向けて支援します

各学校における教育課程は、学習指導要領に従い、児童・生徒の発達段階や地域の特性を踏まえながら、教育目標、教育内容、指導組織、指導計画の総体として編成されます。児童・生徒の生きる力がはぐくまれるよう、各学校の創意ある教育課程の編成を支援します。

(1)学校訪問による指導		[担当] 指導室		
[事業内容]	教職員の指導力向上を図るため、指導主事等が学校を訪問し、指導方法をはじめ、教育全般にわたり指導・助言を行いました。 ※計画訪問:学校教育全般にわたる諸問題を把握し、専門的事項について指導助言を行います。 ※要請訪問:授業実践や校内研究、教育課程に関する指導助言を行います。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	計画訪問の実施回数	計画:28回 実績:28回	計画:28回 実績:28回	計画:28回 実績:-
	要請訪問の実施回数	計画:42回 実績:88回	計画:52回 実績:91回	計画:64回 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・社会性の伸張をめざし、毎週月曜日、1～6年生で縦割りグループをつくり、異年齢での遊びなどの活動を行いました。
- ・地域の方から畑を借りて育てたサツマイモを地域の行事で販売し、その収益を学級文庫の購入に当てる取り組みをしました。
- ・近隣の中学校・高校との連携や交流を行ないました。
- ・エコキャップ運動、グリーンカーテン、また、自校の特徴を活かした「芝生で遊ぼう」等のイベントを通して教育活動を推進しています。

▼施策の方向2-2 活力ある、開かれた学校運営が進められるよう支援します

児童・生徒の実態や地域の様子を踏まえ、保護者や地域住民と連携した特色ある学校運営をめざします。また、保護者や地域への積極的な情報の発信や学校評議員制度の活用など、学校・家庭・地域と関わりを深め、地域の中で信頼される学校づくりを進めます。

(1) 学校評議員の委嘱

[担当] 指導室

[事業内容] 学校の運営に対し意見をいただくことを目的に、主に地域の方の中から校長の推薦があった方を学校評議員として委嘱しました。
学校評議員は、評議員会や学校訪問、学校行事への参加や授業内容の参観などを通じて学校に対する意見や助言をします。また、各種アンケート結果から学校の教育活動に対して助言するなどの活動をしています。各学校では、その助言を受け、次年度の教育活動の計画に生かしています。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
学校評議員の委嘱人数	計画:160人 実績:158人	計画:160人 実績:155人	計画:160人 実績:-

(2) 大学との連携

[担当] 指導室

[事業内容] 大学と児童・生徒の教育活動を支援する「教育インターンシップ」に関する協定を締結し、学生ボランティア10名を各学校に派遣しました。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
協定を結んだ大学数	計画:5校 実績:5校	計画:6校 実績:5校	計画:7校 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・「学校へ行こう週間」を設定し、地域・保護者に学校の教育活動を公開し、子どもたちの様子を参観していただきました。
- ・毎月3日を「学校公開日」として、保護者・地域の方々にいつでも学校に来ていただけるようにしました。
- ・土曜授業参観を設定し、日頃学校にこられない保護者にも児童の学習の様子を参観してもらいました。
- ・学生の学習支援ボランティアを積極的に受け入れ、子どもたちとふれあってもらうことで、教育の重要性を知ってもらっています。
- ・年3回の学校評議委員会を開催し、いじめや不登校の問題や学校評価など多方面の意見交換を実施した。また、いただいた意見を次年度の教育活動に生かすようにしています。

▼施策の方向2-3 「安全と安心」に守られた学校の環境づくりを進めます

安全と安心に守られた学校生活をめざし、防犯体制の整備とともに、家庭・地域と協力して登下校時などの安全確保に努めます。また、大規模災害時に備え、学校の防災計画の見直しを推進します。

学校給食では、安全で、栄養バランスのよい給食を提供します。

(1)児童・生徒の安全対策		[担当] 指導室		
[事業内容]	不審者情報をはじめ、台風など自然災害に伴う児童・生徒の登下校に関する情報や運動会など学校行事の実施に関する情報を学校から保護者に対し発信できる学校PSメールについて、システムの保守を行いました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	学校PSメールシステムの保守	計画:保守の実施 実績:保守の実施	計画:保守の実施 実績:保守の実施	計画:保守の実施 実績:-

(2)共同調理場及び単独調理場大規模改修		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	安全で良質な学校給食を提供するため、学校給食施設の大規模な改修を行いました。平成25年度は、中部学校給食共同調理場の受変電設備改修工事を行ったほか、受入校の給食用エレベーター改修工事について、当初の計画に加えて大和東小、鶴間中においても実施しました。また、北部調理場耐震工事については、入札が3度にわたり不調となったため、事業の実施を平成26年度に変更しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	北部学校給食共同調理場の耐震補強	計画:詳細設計 実績:実施設計	計画:工事 実績:未実施	計画:工事 実績:
	エレベーター改修工事	計画:文ヶ岡小、上和田中、南林間中 実績:計画校の実施設計	計画:上和田小 実績:上和田小、大和東小、鶴間中	計画:つきみ野中 実績:-
	受変電設備改修工事	計画:南部調理場 実績:南部調理場	計画:中部調理場 実績:中部調理場	

(3) 共同調理場及び単独調理場運営**[担当] 保健給食課**

[事業内容] 安全で良質な学校給食を提供するため、学校給食衛生管理基準等に基づき給食調理業務を行いました。

給食調理業務の運営、委託、備品購入、施設管理に伴う光熱水費管理等を行うとともに、調理場等を対象に衛生検査を実施し、食中毒や異物混入の防止に努めました。

なお、受入校(20校)は隔年で10校ずつ衛生検査を実施しています。

《対象校及び1日あたりの食数(H25年5月1日)》

【北部調理場 :4,121食】 緑野小・大野原小・中央林間小・大和中・つきみ野中

【中部調理場 :4,379食】 柳橋小・南林間小・大和東小・引地台小・光丘中・鶴間中・南林間中

【南部調理場 :4,267食】 上和田小・福田小・下福田小・文ヶ岡小・渋谷中・引地台中・上和田中・下福田中

【単独調理校 :直営2,069食・委託3,961食】
 (直営) 林間小・草柳小・深見小
 (委託) 北大和小・大和小・桜丘小・西鶴間小・渋谷小

[計画と実績]

	H24	H25	H26
衛生検査実施施設数 (学校給食共同調理場)	計画:3施設 実績:3施設	計画:3施設 実績:3施設	計画:3施設 実績:-
同 (単独調理校)	計画:8施設 実績:8施設	計画:8施設 実績:8施設	計画:8施設 実績:-
同 (受入校)	計画:10施設 実績:10施設	計画:10施設 実績:10施設	計画:10施設 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・学校 PS メールを有効活用し、不審者情報を保護者に発信し、児童・生徒を見守る目を増やして、児童・生徒の安全を図っています。
- ・「危険予知訓練」を全校朝会で行い児童の安全意識の育成に励んでいます。
- ・小中合同での引き取り訓練を行い、災害時の下校について共通理解を図っています。
- ・災害時や不審者等の安全確保のために、地域の方や教職員による登校指導やパトロールを実施しました。また、登校時の交通安全を目的とした地域・保護者による旗振り指導も行いました。
- ・災害時の防災備蓄食品と飲み物として、ビスケット・ペットボトルの水・簡易トイレなどを購入しました。

▼施策の方向2-4 子どもが落ち着いて学べる学習環境を整備します

安全・安心な学校環境をめざし、老朽化した学校施設の改善を計画的に進めるとともに、児童・生徒が主体的に学べる教室環境づくりに努めます。また、学校規模の適正化に努めます。

(1) 学校施設老朽化に伴う大規模改修	[担当] 教育総務課																				
<p>[事業内容] 良好な教育環境に維持していくため、老朽化した校舎を計画的に改修ができるよう、整備計画に基づき、実施設計を1校(桜丘小)で行うとともに、工事を2校(大和中、つきみ野中)で行いました。</p> <p>大和中学校は、大規模改修にあわせて増築を行うとともに、エレベーターを設置しバリアフリー化を図りました。また、つきみ野中学校は、平成26年度の改修工事に向けて、仮設プレハブ校舎を設置しました。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">大和中学校の完成写真</p>																				
<p>[計画と実績]</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #ccc;"> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 25%;">H24</th> <th style="width: 25%;">H25</th> <th style="width: 35%;">H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>桜丘小</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td>計画: 実施設計 実績: 実施設計</td> <td>計画: 工事(1/2) 実績: -</td> </tr> <tr> <td>渋谷小</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td>計画: 実施設計 実績:</td> </tr> <tr> <td>大和中</td> <td>計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)</td> <td>計画: 工事(2/2) 実績: 計画通り実施</td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td>つきみ野中</td> <td>計画: 実施設計 実績: 実施設計</td> <td>計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)</td> <td>計画: 工事(2/2) 実績: -</td> </tr> </tbody> </table>		H24	H25	H26	桜丘小	/	計画: 実施設計 実績: 実施設計	計画: 工事(1/2) 実績: -	渋谷小	/	/	計画: 実施設計 実績:	大和中	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)	計画: 工事(2/2) 実績: 計画通り実施	/	つきみ野中	計画: 実施設計 実績: 実施設計	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)	計画: 工事(2/2) 実績: -
	H24	H25	H26																		
桜丘小	/	計画: 実施設計 実績: 実施設計	計画: 工事(1/2) 実績: -																		
渋谷小	/	/	計画: 実施設計 実績:																		
大和中	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)	計画: 工事(2/2) 実績: 計画通り実施	/																		
つきみ野中	計画: 実施設計 実績: 実施設計	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)	計画: 工事(2/2) 実績: -																		

(2) 学校防音設備整備	[担当] 教育総務課																				
<p>[事業内容] 航空機騒音を軽減し良好な室内環境の下での教育を実現するため、実施設計を1校(桜丘小)で行うとともに、工事を2校(大和中、つきみ野中)で行いました。</p> <p>大和中学校は、計画どおり工事が完了し、つきみ野中学校は、仮設プレハブ校舎が完成しました。</p>																					
<p>[計画と実績]</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #ccc;"> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 25%;">H24</th> <th style="width: 25%;">H25</th> <th style="width: 35%;">H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>桜丘小</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td>計画: 実施設計 実績: 実施設計</td> <td>計画: 工事(1/2) 実績: -</td> </tr> <tr> <td>渋谷小・南林間中</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td>計画: 実施設計 実績:</td> </tr> <tr> <td>大和中</td> <td>計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)</td> <td>計画: 工事(2/2) 実績: 計画通り実施</td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td>つきみ野中</td> <td>計画: 実施設計 実績: 実施設計</td> <td>計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)</td> <td>計画: 工事(2/2) 実績: -</td> </tr> </tbody> </table>		H24	H25	H26	桜丘小	/	計画: 実施設計 実績: 実施設計	計画: 工事(1/2) 実績: -	渋谷小・南林間中	/	/	計画: 実施設計 実績:	大和中	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)	計画: 工事(2/2) 実績: 計画通り実施	/	つきみ野中	計画: 実施設計 実績: 実施設計	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)	計画: 工事(2/2) 実績: -
	H24	H25	H26																		
桜丘小	/	計画: 実施設計 実績: 実施設計	計画: 工事(1/2) 実績: -																		
渋谷小・南林間中	/	/	計画: 実施設計 実績:																		
大和中	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)	計画: 工事(2/2) 実績: 計画通り実施	/																		
つきみ野中	計画: 実施設計 実績: 実施設計	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)	計画: 工事(2/2) 実績: -																		

(3) 学校トイレ改修**[担当]教育総務課**

[事業内容] 小学校4校、中学校2校のトイレを、明るく衛生的で、使いやすいトイレに改修しました。6校のトイレはすべて乾式トイレに改修するとともに、一部のトイレをバリアフリー化しました。柳橋小学校については、平成26年度計画分も前倒しで実施し、全ての工事を完了することができました。

[計画と実績]	H24	H25	H26
改修工事 (小学校)	計画: 林間、大和、 草柳、南林間 実績: 計画通り実施	計画: 北大和、 深見、西鶴間、柳橋 実績: 計画通り実施 (柳橋はH26年度計 画分も実施)。	計画: 林間、柳橋、 南林間 実績: -
改修工事 (中学校)	計画: 引地台 実績: 計画通り実施	計画: 大和、南林間 実績: 計画通り実施	計画: 引地台、 つきみ野、上和田 実績: -

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・日常的に校舎内外の施設を確認し、必要に応じて教育委員会に修繕を依頼するなど、安心と安全に留意して維持管理に努めています。

▼施策の方向2-5 教職員の教育研究の推進と研修の充実を図ります

人格的資質・課題解決力・授業力など、教職員の資質・能力の向上や学校の教育力を高める研修の充実を図ります。また、校内研修としてOJTの活用を図るなど、“学びつづける教職員”をめざし、はたらきかけます。

(1)教職員研修		[担当] 指導室、教育研究所	
[事業内容]	<p>教職経験に応じた研修や、校長・教頭などの職責に応じた研修に加え、専門性を高める研修(希望研修及び各校1名以上の選出研修)を行いました。</p> <p>主に希望研修講座として人格的資質向上研修講座、課題解決力向上研修講座、授業力向上研修講座を11回行いました。</p>		
教職員研修の様子			
[計画と実績]		H24	H25
	各種研修会の実施	計画:実施 実績:59回 (教育研究所15回、 指導室44回)	計画:実施 実績:58回 (教育研究所15回、 指導室43回)
		H26	計画:実施 実績:-

(2)教育研究支援		[担当]指導室	
[事業内容]	<p>各学校に対し、「今日的な教育課題の解決に向けた研究」や「小中連携に関する研究」、「各学校の校内研究の質的向上」などに関する教育研究を委託しました。また、市内教職員の横断的な研究組織に対し、補助金等を交付しました。</p> <p>※小・中学校教育研究会は、各部会で年4～6回にわたり、各年度設定したテーマについて研究し、その成果を機関誌にまとめ報告します。</p>		
[計画と実績]		H24	H25
	研究委託	計画:教育課題研究推進委託3校、 その他25校 実績:教育課題研究推進委託3校、 その他25校	計画:教育課題研究推進委託3校、 その他25校 実績:教育課題研究推進委託3校、 その他25校
	市小・中学校教育研究会等への助成	計画:39部会 実績:38部会	計画:39部会 実績:38部会
		H26	計画:教育課題研究推進委託3校、 その他25校 実績:-

(3)学校訪問による指導（再掲）		[担当] 指導室		
[事業内容]	教職員の指導力向上を図るため、指導主事等が学校を訪問し、指導方法をはじめ、教育全般にわたり指導・助言を行いました。 ※計画訪問: 学校教育全般にわたる諸問題を把握し、専門的事項について指導助言を行います。 ※要請訪問: 授業実践や校内研究、教育課程に関する指導助言を行います。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	計画訪問の実施回数	計画:28回 実績:28回	計画:28回 実績:28回	計画:28回 実績:-
	要請訪問の実施回数	計画:42回 実績:88回	計画:52回 実績:91回	計画:64回 実績:-

(4)教科における体験的活動の推進		[担当] 指導室、教育研究所		
[事業内容]	新学習指導要領の趣旨に沿った体験的な学習、問題解決的な学習の充実に向けて、教職員対象の研修会や訪問指導を行いました。 ・算数「算数的活動を生かした授業づくりと評価の在り方」 ・理科「泉の森、ふれあいの森～副読本『大和の自然』を手にとって～」			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	体験的な学習を踏まえた授業力向上研修の開催回数	計画:1回 実績:2回	計画:1回 実績:2回	計画:1回 実績:-
	要請訪問時における指導・助言	計画:実施 実績:88回	計画:実施 実績:91回	計画:実施 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・校内研究推進委員会を中心に、研究テーマに沿って授業研究を中心に評価と指導の一体化について研究を推進しました。
- ・毎月1回以上の校内研究の実施及び各学年1回の研究授業を行い、全職員参加の研究会を3回実施しました。
- ・観点別評価による評価に向けて通信表の作成と観点別評価を視野に入れた授業について校内研究で研鑽を積みました。
- ・講師を招いて、電子黒板の研修、事故防止研修、ALTの先生と外国語研修を行いました。また、児童指導上の問題をケース会議形式で、全員で共有する児童指導研修会を実施しました。
- ・情報モラルについての授業を全学年で行い、授業を見合いました。また、外部講師による授業作りの研修も実施しました。
- ・ユニバーサルデザイン化を意識した全職員による授業研究と校内研究会の充実を図りました。
- ・小中の交流活動を充実し、さらなる発展に向けて研究協議や意見交換をし、共通認識を図ることで、今後の取り組みに役立てました。

▼施策の方向2-6 教員が子どもに向き合える環境づくりに努めます

地域の方々及びスクールアシスタントなどの非常勤職員によるサポート、校務用PCの一人1台の整備、校務・組織の見直しなどを進め、教職員が子どもと向き合う時間の確保に努めます。

(1)教育用コンピュータ整備		[担当] 教育研究所		
[事業内容]	小中学校のコンピュータ教室等に設置する教育用コンピュータ及び小学校校務用コンピュータを整備しました。 ・中学校コンピュータ教室 9校更新(コンピュータ369台、児童系サーバ9台、周辺機器) ・小中学校特別支援学級用タブレット19台新規導入 ・中学校電子黒板用コンピュータ9台新規導入 ・小学校校務用コンピュータ231台更新			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	機器等の更新	計画:小学校職員系校内LANサーバ機器等の更新 実績:実施	計画:小学校職員系校内LANコンピュータ機器の更新 実績:実施	計画:コンピュータ教室機器の更新 実績:-

(2)教職員健康診断		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	疾病の早期発見と予防、健康の保持を図るため、教職員の健康診断のほか、メンタルヘルス講座を実施しました。 教職員健康診断 7月24日、8月8日、8月21日 延3日間実施 受診者数:674人			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	教職員健康診断の実施	計画:3日 実績:3日	計画:3日 実績:3日	計画:3日 実績:-
	教職員対象メンタルヘルス講座の開催	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:-

(3)非常勤講師派遣		[担当] 学校教育課		
[事業内容]	教職員が病気療養や研修等で短期間(2週間未満※)不在となり、授業に支障がでないよう学校長からの要請により、非常勤講師を任用し、小学校4校、中学校1校に派遣しました。 ※県費非常勤講師の派遣対象外			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	派遣日数	計画:11日程度 実績:30日	計画:11日程度 実績:23日	計画:11日程度 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・セキュリティの意識を高く持ち、電子データの管理を進めています。文書作成や成績処理において校務の情報化を図っています。
- ・校内の衛生推進者(教頭)が中心になり、労働安全衛生管理体制の推進に努めています。

基本目標 2

教育委員会の自己点検評価

施策の方向2—1 創意ある教育課程の編成に向けて支援します						[施策の達成度] B	
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画訪問における各学校の重点項目や教育課程の工夫の把握、要請訪問における委託研究や校内研究を具現化する授業の参観や校内研究会への参加により、当該校の取り組みや今後の方向性について指導・助言を行いました。この結果、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業展開や校内研究の質的向上が見られました。 各学校では、「異学年交流をとおしたリーダー育成」「週1回のロング昼休みを活用した柔軟なカリキュラム設定」「自治活動の充実」「定期試験前の授業時数増加」など、自校の学校目標達成に向け創意・工夫のある教育活動に取り組んでいます。教育委員会では、それらの工夫を情報提供するとともに、教職員間での情報交換の機会を多く持つため、さまざまな研修会でグループ協議のテーマとして設定することで、各校で更なる取り組みの工夫が進められるよう支援しています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会から学校へ示す学校評価の内容を検討することで、各学校が次年度に向けて有効な教育活動ができるように工夫していただく必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
創意ある教育課程を編成している学校数	校	28	28	28		28	28

施策の方向2—2 活力ある、開かれた学校運営が進められるよう支援します						[施策の達成度] B	
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果指標として設定している「学校評議員の来校日数」は6.2日となり計画策定時より増加しました。重点施策であるいじめ・不登校問題の解消や読書活動の推進をテーマに設定するなど、各学校の教育活動に対して多くの意見をいただき、より良い教育環境や教育活動に繋がっています。 「学校へ行こう週間」を多くの方に見学してもらえるように、教育委員会のホームページに公開するなど丁寧な情報提供をしています。各学校で行われている教育活動を地域・保護者に幅広く公開することで、学校に対する地域からの理解や協力が得られています。 大学との連携により学校に派遣したインターンシップの学生が、児童・生徒への学習支援の担い手として活躍しています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会では、学校支援ボランティア人材バンクに登録していただいている方々の名簿を冊子にして各学校へ配付していますが、これまで以上に、学校にとって有効な人材の確保や情報発信に努めていく必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
学校評議員の来校日数	日	5.4	5.8	6.2		6.5	8

施策の方向2—3 「安全と安心」に守られた学校の環境づくりを進めます						[施策の達成度]	B
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標として設定している「応急手当普及員数」は前年度と比べほぼ同じですが、既に中間目標値の90人を超えています。 ・学校 PS メールでは、不審者情報だけでなく、自然災害に伴う登下校の情報、さらに、学校行事や学校との連絡事項などの有効な情報を発信しており、登録世帯数は12,440件、登録率は86%となり、昨年度より5%増加しています。不審者情報については各家庭へ情報を伝達することはもちろん、関係各課との情報共有を図り、児童生徒の安全対策に役立っています。 ・調理器具の部品が給食に混入した事故を受け、異物混入事故防止対策マニュアル等を作成するとともに、器具を大幅に買い換えしました。また、委託業者との情報交換会を定期的で開催するなど再発防止に努めています。 ・給食の食材は国内産を基本として、遺伝組み換えがされていないものを使用し、食品添加物を極力避けるなどの取り組みにより、安全・安心な給食を提供できています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校 PS メールで配信する情報については、関係各課のほか、広く関係機関とも共有することで、より有効な活用を進めていくことが望まれます。 ・給食を安全かつ安定的に提供するため、総合保守点検の結果を踏まえ、計画的に調理機器具を更新する必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
応急手当普及員数	人	63	98	96		90	112

施策の方向2—4 子どもが落ち着いて学べる学習環境を整備します						[施策の達成度]	B
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ改修では、臭いの元となる細菌の繁殖を抑えるために床面を湿式から乾式に変更したほか、便器を和式から洋式へと変更し、照明や内装を明るいものにするなど、児童・生徒が明るく快適な学校生活を送ることができるよう改修しました。 ・大規模改修、学校防音設備整備では、施設を延命化し、現状に合った使いやすい施設に全面改修するために、大和中学校において改修工事に着手し、平成 25 年度に完了しました。また、校舎の増築やエレベーターを設置しバリアフリー整備を行いました。 ・日常的な修繕要望に対する「修繕必要施設の改善割合」は89.5%と着実に修繕を行っています。 ・学校規模の適正化に向け、地元自治会等との協議や増築計画の策定を行いました。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進む各学校施設を把握し、適正な優先順位を判断し整備を進めることが必要です。 ・35人学級が小学校2年生まで実施されたことや開発事業の影響により、今後、教室数の不足が見込まれる学校があることから、学校施設の拡充や学校規模の適正化などの対応を検討する必要があります。特に、北大和小学校については児童数の増加による教室不足が喫緊の課題となっていることから、早急な対応が必要とされています。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
修繕必要施設の改善割合	%	86.0	88.7	89.5		90.0	90.0

施策の方向2—5 教職員の教育研究の推進と研修の充実を図ります				[施策の達成度] B			
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託研究として研究期間3年間の教育課題研究推進校3校、2年間のふれあい教育実践研究推進校3校、1年間の小・中連携実践研究推進校1校を定めています。これにより、該当校では、組織的、実践的な研究や地域の特性を生かした研究、小中連携をテーマにした研究などを行い、児童・生徒の学力向上や規範意識向上などに役立てています。 ・学習指導要領の改訂から小学校では3年、中学校では2年が経過し、各学校では、その主旨を踏まえた授業研究等が行われています。教育委員会では、計画訪問や要請訪問の機会を利用して指導・助言うことで、質の高い研究や授業が展開されるよう努めており、成果指標として設定している「校内研究に際し指導主事派遣要請をした件数」は、91回と昨年度より微増しています。 ・今日的な教育課題に取り組むための研修講座を開催し、日々の授業や教育活動に反映させることができています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりに対し、きめ細かい指導と分かりやすい評価を行うとともに、指導と評価の一体化を意識した教育活動が求められます。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
校内研究に際し、学校が指導主事派遣要請をした件数	回	42	88	91		52	64

施策の方向2—6 教員が子どもに向き合える環境づくりに努めます				[施策の達成度] B			
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校校務用コンピュータの更新により、校務の効率化を図ることができました。 ・成果指標として設定している「教職員の健康診断・人間ドック受診率」は合計98.1%と中間目標値を達成しました。また、メンタルヘルスに関する講習会などを通じてメンタルヘルス相談制度などの周知に努めています。 ・非常勤講師の派遣により、教員の欠員が生じた際にも支障なく授業が実施されました。また、教員の業務負担の解消にもつながっています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の受診率は中間目標値を達成していますが、最終目標値の達成に向けて、健康診断受診の呼びかけを強化することや教職員の他の会議と日程が重複しないよう参加しやすい日程とすることが必要です。また、教職員の健康管理を多面的にとらえ、メンタルヘルスに関する対策などを強化する必要があります。 ・教職員が子どもと向き合う時間を確保するためには、校務の効率化が重要です。教職員の配置に対する適正なコンピュータの台数を確保するため、一人一台の整備に向けて計画的に取り組みを進めていきます。 ・急な派遣要請に対応できるような非常勤講師の確保に努める必要があります。特に中学校においては、教科によっては、派遣要請に対応できない場合もあります。 <p>[特記事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師の登録募集記事を平成25年度ビジュアル版「大和の教育」に掲載しています。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
教職員の健康診断・人間ドック受診率	%	95.9	96.2	98.1		98.0	100.0

基本目標 2 創意に満ち、活力ある学校づくりを進めます

[総合評価] B

[基本目標2に対する評価、及び目標達成に向けた施策の展開方針]

各施策の方向で積極的な取り組みが進められ、目標とした成果が得られています。

創意に満ち活力ある学校づくりを進めるためには、地域や家庭の協力を得て着実な取り組みを進めるとともに、高い使命感に裏打ちされた教職員の自己研鑽のための努力と、それを支援する仕組みを整えることが必要です。このため、引き続き長期的な展望と多面的な視点をもって教育環境の整備に取り組むことが求められます。

基本目標3 家庭との連携を充実し、生きる力の基礎をはぐくみます

家庭は、子どもにとって、日々の暮らしの中で心とからだを健やかにはぐくむ重要な場であるとともに、安心できる場所です。

学校教育において、学校・家庭間の連携を一層進めることで、基本的な生活習慣や、人への信頼や人とかわる力の基礎をはぐくみに努めます。

■実施計画掲載事業と平成 25 年度の実績

▼施策の方向3—1 学校と保護者との連携を深めます

基本的な生活習慣・規範意識、読書の習慣などについて、家庭と連携を深める中で定着をめざします。

また、保護者の協力による授業や校外活動における安全確保、保護者同士の交流会設定など、学校と保護者の関係を深める支援に努めます。

(1)教育委員会広報誌発行		[担当] 教育研究所		
[事業内容]	学校教育について地域全体で理解をいただくとともに、教育委員会の施策や学校の特色ある教育活動について、市民に広く周知するため、教育委員会広報誌、ビジュアル版「大和の教育」および「まなびやまと」を発行しました。また、広報誌の発行を通して保護者と連携した学校教育推進のため、学習会への参加や活動への協力を働きかけました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	ビジュアル版「大和の教育」の発行 (75,500部)	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:-
	「まなびやまと」の発行 (各75,500部)	計画:2回 実績:2回	計画:2回 実績:2回	計画:2回 実績:-


本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・広報誌をもとに話題のやりとりを通して保護者との関係を密にし、信頼関係の構築に努めています。
- ・学校ホームページ、学校・学年・学級だより、給食だより等の媒体を活用するなど、学校内の情報の発信に努めています。

▼施策の方向3—2 保護者の子ども理解を深める取り組みを推進します

保護者を対象とした学習会や、親子で参加できるイベントなどを開催し、子ども理解につながる情報を提供するとともに、基本的な生活習慣の確立を支援する取り組みを進めます。また、相談体制の充実により、悩みや不安を抱える家庭を支えています。

(1) 青少年相談		[担当] 青少年相談室		
[事業内容]	<p>いじめや不登校などで悩んでいる児童・生徒やその保護者等から相談(電話相談 279 件、来室相談 325 件)を受け、その課題解消に向けた支援をしました。中でも、家庭環境の調整や関係機関(医療・福祉)との連携が必要となる複雑な相談に対しては、平成 24 年度から 2 名体制としたスクールソーシャルワーカーが支援を行っています。(SSW の対応件数 73 件)</p> <p>学校における教育相談の質的な向上を図るため、各学校へ「修復的対話」プログラムの導入を進めました。青少年相談室特別相談員が講師となり、教職員や相談室相談員等を対象に同プログラムの研修を実施しました。(年間研修回数 19 回(教職員対象 12 回、相談室相談員等対象 7 回、))</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	SSW の稼働日数	計画: 2 日/週 (1 名体制) 実績: 2 日/週 (10 月から 4 日/週 2 名体制)	計画: 4 日/週 (1 名体制) 実績: 4 日/週 (2 名体制)	計画: 4 日/週 (1 名体制) 実績: -

(2) 親子料理教室		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	<p>子どもたちに料理を自分で作る喜びを感じ、給食への理解を深めてもらうとともに、家庭における食に対する意識を高めながら親子の絆を深めることができるよう、親子料理教室を開催しました。</p> <p>・夏休み親子料理教室: 開催 7 月 30 日、31 日 参加者数 95 名</p>			
				
		夏休み親子料理教室		
[計画と実績]		H24	H25	H26
	親子料理教室の開催回数	計画: 2 回 実績: 2 回	計画: 2 回 実績: 2 回	計画: 2 回 実績: -

(3) 保護者対象講座

[担当] 青少年相談室、教育研究所

[事業内容]

保護者に限らず、教職員や青少年関係団体関係者をはじめとする、多くの市民の方々の子ども理解を深めるため、抱える課題に応える講演会を開催しました。

・青少年相談講演会

平成 25 年度は、いじめ・不登校など学校内の課題解決力の向上を図るため、教職員を対象とした「『修復的対話』ファシリテーター養成研修」として実施しました。

参加者数 18 名

・非行防止講演会

平成 25 年度から、非行防止に限らず幅広く青少年の健全育成をテーマとした講演会とするため、名称を「青少年健全育成講演会」に変更しました。

「子どもたちの豊かな育ちのためにー

学校・家庭・地域にできること」参加者数 115 名

・教育講演会「ネット社会の現状と情報モラル～大人はどうすべきか～」参加者数 53 名

・教職員向け研修講座の中に保護者、市民を対象とした講座を2講座開催しました。

「断(はなし)から人権について考える～落語にみる人権意識～」参加者数 69 名

「“ほめ言葉シャワー”で子ども、教師が変わるー学級活動で生かせる SSTー」

参加者数 64 名

[計画と実績]

	H24	H25	H26
青少年相談講演会	計画:2回 実績:2回	計画:2回 実績:2回	計画:2回 実績:-
非行防止講演会 (H25～青少年健全育成講演会に名称変更)	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:-
不登校を考える保護者会	計画:3回 実績:4回	計画:3回 実績:3回	計画:3回 実績:-
教育研究所教育講演会	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・子育てに関し、懇談会の中で話し合いの場を設けたり、講演会を開催したりしています。
- ・学校教育相談員やスクールカウンセラーと連携し、保護者の相談に応じているほか、スクールソーシャルワーカーや臨床心理士などの専門職と連携し、保護者及び児童・生徒の悩みや不安を解消できるよう対応しています。

基本目標 3

教育委員会の自己点検評価

施策の方向3—1 学校と保護者との連携を深めます						[施策の達成度] B	
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点施策である読書活動、いじめ不登校対策に関する学校の取り組みや、保護者や地域の方々と共に学ぶ学習や取り組みなど、掲載情報を精選した広報紙を作成・発行しました。これにより学校教育施策の方向性や子どもの学びの姿などの情報を保護者と共有をすることができ、各学校の教育活動についての理解を深めることにつながっています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果指標として設定している「学校から家庭への連絡や情報提供が十分されていると感じている小学校保護者の割合」は、計画策定時から上昇しているものの、前年度に比べ減少しており、引き続き、きめ細かい情報提供に努める必要があります。特に、学校独自の取り組みなどの情報をタイムリーに発信することが重要であり、学校ホームページの活用を促進する体制の構築が課題となっています。 児童・生徒の学力向上に向けて、学校・家庭・地域が連携した取り組みを進めていく必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
学校から家庭への連絡や情報提供が十分されていると感じている小学校保護者の割合	%	81.3	92.9	84.1		85.0	90.0

施策の方向3—2 保護者の子ども理解を深める取り組みを推進します						[施策の達成度] B	
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールソーシャルワーカーが、学校や家庭環境だけでなく医療や福祉の関わりなど複雑化した悩みや不安を抱える児童・生徒とその保護者に対して、課題解消に向けた支援を積極的に行いました。その結果、成果指標として設定した「スクールソーシャルワーカーがかかわるケース数」は、平成24年度の40件から73件に大きく増加し、そのうち52件は改善がみられました。 夏休みに児童・生徒とその保護者を対象に「夏休み親子料理教室」を2回開催し、食に対する理解を深め親子のふれあいの場を提供することができました。 保護者向けの講演会を開催し、教育に関する情報を発信することで保護者の子どもへの理解を深める機会を提供できました。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭環境の調整や関係機関(医療・福祉)との連携が必要となる相談が増加していると同時に、相談の結果、一定の改善がみられても完全な課題の解消には至らず、継続して関わる必要のあるケースが多くなっています。スクールソーシャルワーカーの人員体制の更なる拡充と、高い資質を持った相談員を確保する必要があります。 食や親子のふれあいに関心がある方の参加が多いという傾向があることから、関心が薄い方にも参加してもらえようPRなどを工夫していくことが必要です。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
スクールソーシャルワーカーがかかわるケース数	件	6	40	73		20	25

基本目標 3 家庭との連携を充実し、生きる力の基礎をはぐくみます

[総合評価] B

[基本目標3に対する評価、及び目標達成に向けた施策の展開方針]

各施策の方向で積極的な取り組みが進められ、概ね目標とした成果が得られています。放課後の学習習慣の定着や家読の推進など、家庭との連携を一層進める施策展開が求められることから、保護者に対して適時的確な情報発信をするとともに、そのための体制の整備についても検討が必要です。また、家庭が子どもの心の拠り所となるよう、相談体制を引き続き充実させることで、家庭を支える環境づくりを進めていく必要があります。

基本目標4 地域の力を生かした活動を充実し、生きる力をはぐくみます

子どもは地域で育ちます。異年齢の子どもや経験豊かな人々とのふれあいにより、生きる知恵と社会性を身につけ、思いやりの心をはぐくみます。

学校・地域間の連携を一層進めることで、児童・生徒の活動の充実を図るとともに、地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます。

■実施計画掲載事業と平成25年度の実績

▼施策の方向4—1 地域社会と協働した学校教育を推進します

読み聞かせボランティアをはじめとする学校支援ボランティアなど、地域人材を講師とした教育活動の展開を図ったり、まち探検や職場体験など地域の中で教育活動を展開したりすることで、地域の方々の協力のもと、特色ある学校運営を進めます。

(1)教育委員会広報誌発行(再掲)		[担当] 教育研究所		
[事業内容]	学校教育について地域全体で理解をいただくとともに、教育委員会の施策や学校の特色ある教育活動について、市民に広く周知するため、教育委員会広報誌、ビジュアル版「大和の教育」および「まなびやまと」を発行しました。また、広報誌の発行を通して保護者と連携した学校教育推進のため、学習会への参加や活動への協力を働きかけました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	ビジュアル版「大和の教育」の発行(75,500部)	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:-
	「まなびやまと」の発行(各75,500部)	計画:2回 実績:2回	計画:2回 実績:1回	計画:2回 実績:-

(2)教育委員会表彰		[担当] 教育総務課		
[事業内容]	青少年の健全育成や学校教育、社会教育などの分野において、長年にわたり活動いただいた功労や、他の模範となった功績をたたえ、表彰しました。			
				
[計画と実績]		H24	H25	H26
	被表彰者数	計画:40人 実績:49人	計画:40人 実績:45人	計画:40人 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

・地域の方が学校での教育活動に積極的に協力していただけるよう、教育活動や学校内の情報を発信しています。

▼施策の方向4—2 地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます

学校・家庭・地域が、子どもを取り巻く課題を共有できる取り組みを進めます。
また、学校・家庭・地域が、大和市家庭・地域教育活性化会議など社会教育関係諸団体などの地域ネットワークへ参画し、登下校時の見守りや青少年の健全育成のための社会環境浄化活動などを行うことで、地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます。

(1)夏休み子どもまなびや		[担当] 指導室		
[事業内容]	夏休みに、学校や家庭とは違う環境で、地域の方と触れ合いながら、主体的に学ぶことの楽しさを実感できるよう、児童の夏休みの宿題や自由研究などへの取り組みを支援する夏休み子どもまなびやを開設し、658名の児童が参加し、地域ボランティアとして160名の方にご協力いただきました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	まなびやの開催 (コミュニティセンター)	計画:20 施設×2回 実績:20 施設×2回	計画:20 施設×2回 実績:20 施設×2回	計画:20 施設×2回 実績:-

(2)青少年相談・街頭補導		[担当] 青少年相談室		
[事業内容]	悩む青少年や保護者等から相談を受け、その問題解決を支援しました。 ・電話相談 279 件、来室相談 325 件 また、非行防止、社会環境浄化のため、ゲームセンターや公園等を巡回し、問題行動がある青少年に対しては補導を行いました。 ・専門街頭指導員による補導実施件数:317 件 ・街頭補導従事者数:延べ 1,053 人			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	街頭補導の実施回数	計画:10 回/週 実績:10 回/週	計画:10 回/週 実績:30 回/月	計画:10 回/週 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・ふれあい広場やコミセンまつりに参画することで、地域の方々と交流を深めています。
- ・児童・生徒が、地域で行われる清掃活動や美化活動などにボランティアとして積極的に参加するなど、地域の一員としての自覚を持つことにつながっています。
- ・家庭地域活性化会議やPTA と連携し、地域のパトロールに参加しています。

基本目標 4

教育委員会の自己点検評価

施策の方向4—1 地域社会と協働した学校教育を推進します						[施策の達成度] B	
[施策の成果]							
<ul style="list-style-type: none"> 成果指標として設定している「小学校で授業を実施したゲストティーチャーの1校あたりの人数」は25人となり計画策定時より1人増加しました。 専門的な知識や技術を持った地域の方々に学校支援ボランティア人材バンクに登録していただき、各学校へ情報提供しています。各学校では教科学習のほか、道徳や総合、人権教育や平和教育などに幅広く活用されています。 中学校では、キャリア教育の一環として、地域の方を招いて職業講話を実施している学校もあります。どの方も、自分自身の体験や専門知識の中からの授業であり、非常に説得力があり児童・生徒にとって新鮮で効果的な授業となっています。 教育委員会表彰式を開催し、功労者を表彰することで教育活動への地域の理解を深めることにつながっています。 							
[今後の課題]							
<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が実体験をしたり、専門家のお話を聞いたりすることは、非常に効果的であり、重要な機会となります。今後も、より多くの機会が提供できるよう、情報収集や人材確保が求められます。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
小学校で授業を実施したゲストティーチャーの1校あたりの人数	人	24	24.6	25.0		27	30

施策の方向4—2 地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます						[施策の達成度] B	
[施策の成果]							
<ul style="list-style-type: none"> 夏休みを利用し、小学生を対象に学習支援「夏休み子どもまなびや」を市内20か所で実施しました。参加児童658人に対し、地域の方などによるボランティアの指導者160人が学習支援を行いました。 いじめや不登校などで悩んでいる青少年やその保護者等から相談を受け、その課題解消に向けた支援をすることができました。(電話相談279件、来室相談325件) ゲームセンターや公園等を巡回して問題行動がある青少年に対しては補導を行うなど街頭補導を実施したり、有害看板等の撤去活動(3回)や有害図書区分陳列等調査を行ったりすることで、非行等の防止や地域全体で子どもをはぐくむ社会環境浄化につながっています。 							
[今後の課題]							
<ul style="list-style-type: none"> 成果指標として設定している「ボランティア活動や地域の活動に参加したことがある生徒の割合」は、41.6%となり大きく減少しました。入試制度の変更などの影響が考えられますが、今後は、ボランティアの募集方法や参加形態など、取り組み方の工夫を各学校へ発信することで、参加率の向上を図ります。 多様な相談に対応できる相談員等の確保や関係機関との一層の連携強化が課題となっています。また、青少年を取り巻く社会環境を改善するために、街頭補導、青少年の非行(喫煙、飲酒など)防止活動など地域全体で着実な活動を行う必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
ボランティア活動や地域の活動に参加したことがある生徒の割合	%	62.0	64.9	41.6		65.0	70.0

基本目標4 地域の力を生かした活動を充実し、生きる力をはぐくみます

[総合評価]

B

[基本目標4に対する評価、及び目標達成に向けた施策の展開方針]

各施策の方向でボランティアなどの協力が定着しつつあり、一定の成果が得られていますが、今後も引き続き様々な施策において、より多くの地域の方に協力していただく必要があります。

地域の力を生かした活動を充実させるためには、地域ボランティアや自治会などとの協力関係がより深いものとなるよう、協力を呼びかける仕組みなどを工夫していく必要があります。